



専齋 SENSAL



長崎医療センター院内保育所「くるみ保育園」
厚生労働省第二共済組合が運営していましたが、本年より病院が運営母体となりました。

診療科紹介

Vol.16 内分泌・代謝内科

プロフェッショナルの肖像

・錦戸 雅春
(泌尿器科部長)

TOPICS

- ・職場紹介9B病棟
- ・職場のホープ
- ・2017年ロサンゼルス退役軍人病院
見学研修報告

医療センター講演・研修・テレビ出演等

地域医療連携室からのお知らせ

SENSALごはん

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Vol.16

内分泌・代謝内科

診療の4本柱

1. 第一級の糖尿病患者教育機関を目指す
2. 糖尿病を伴うすべての病態・患者に対する血糖コントロール・指導
3. 地域の糖尿病診療レベルの向上、連携を促進
4. 内分泌代謝疾患全般に対して質の高い医療を提供



2017年度、内分泌・代謝内科カンファレンスメンバー

スタッフおよび施設認定

当院内分泌・代謝内科はスタッフ2名とレジデント1名で構成されています。

日本糖尿病学会認定教育施設であり、糖尿病専門医を目指して研修する若手医師の育成が可能です。

糖尿病療養支援入院

糖尿病患者は年々増加傾向にあり、様々な合併症をきたすため、その発症予防や進展予防が重要な疾患です。糖尿病の患者教育がその点で重要であり、当院においては教育入院を行っています。

当院の糖尿病教育入院は、在院日数、現役世代のライフスタイルを考慮し、入院期間は11日間となるべくコン

パクトにまとめています。また、パス名も教育という言葉の抵抗もあるため、「糖尿病療養支援入院」としています。

糖尿病診療はチーム医療であることが非常に重要です。看護師、栄養士をはじめとする様々な職種と密に協同作業を行うことで、患者それぞれのQOLを重視したオーダーメイドの診療を行っています。

院内血糖管理

各診療科入院の患者で糖尿病を有する人が非常に多くなっています。周術期、感染症、心血管疾患急性期、癌化学療法等において血糖コントロールは重要であり、治療の成否に関わります。当科では入院診療科と協力

し、入院中の血糖管理に努めています。各診療科における治療において血糖が妨げにならないように努めております。

地域の糖尿病診療レベルの向上、連携

糖尿病患者は年々増加傾向にあり、専門病院だけで糖尿病問題を解決することはできません。地域医療に従事される診療所医師の協力は必須であり、また、地域全体での糖尿病診療レベルの向上が図られる必要があります。当科では地域支援病院として糖尿病地域連携パスを積極的に進め、地域の先生方と協力して治療に当たっています。今後も実効性のある病診連携システムを模索、構築していきます。

糖尿病看護認定看護師は2名体制でフットケア/療養指導外来の充実、スタッフ教育の向上に尽力されています。糖尿病透析予防管理料の算定も行っており、合同カンファレンスを開催していますが、ほかの患者に対してのカンファレンスも行っており、入院が困難な患者へのサポート体制作りにも尽力しています。

また、産婦人科と合同カンファレンスを行い、妊娠糖尿病、あるいは糖尿病合併妊娠の患者の管理をスムーズに行えるようにしています。

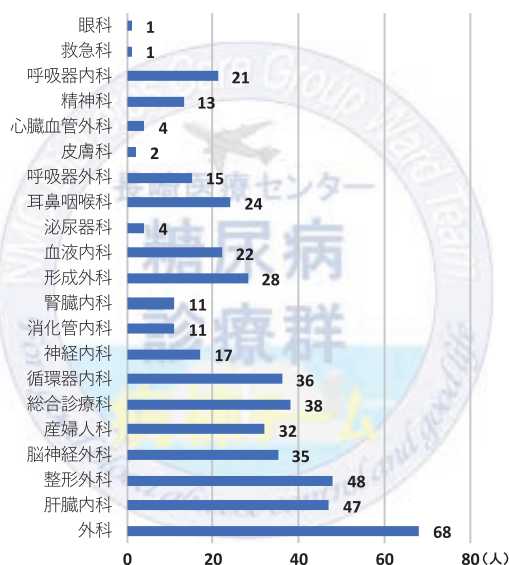
内分泌疾患の診療

バセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症に対応しており、脳外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、外科、また必要に応じて他院とも連携して診療を行っています。

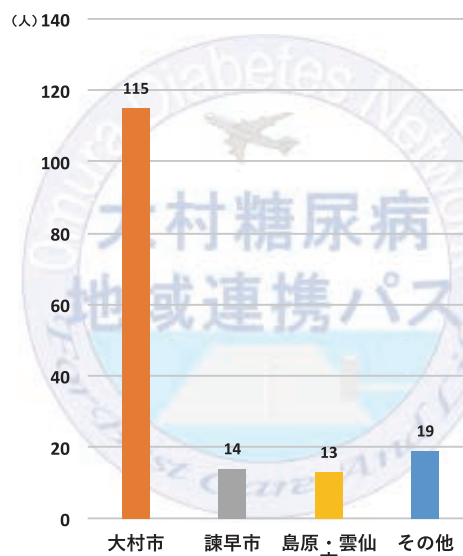
疾患名	症例数
1) 2型糖尿病	91
2) 1型糖尿病	13
3) アルドステロン症	8
4) 甲状腺機能亢進症	5
5) 下垂体機能低下症	5
6) その他の糖尿病	4
7) 低血糖	4
8) 誤嚥性肺炎	2
9) 妊娠中の糖尿病	2
10) その他	13
総 計	147

2017年の疾患別入院患者数

診療科別併診数(延べ数)



当院に入院され、当科で血糖管理を行った患者数(2016年度)



連携患者数 地区別集計(2017年3月まで)

プロフェッショナルの肖像

Vol. 6

プロはテレビの中にだけいるのではありません。医療という不確実な仕事の現場で、常に結果を求められ、それに応えるべく日々研鑽を積んでいる長崎医療センターの医師に訊きます。
聞き手：小森敦正（難治性疾患研究部長）

錦戸 雅春（泌尿器科部長）

第6回目は、錦戸先生泌尿器科部長
長崎県出身。1984年長崎大学卒。同年長崎大学泌尿器科入局。
平成29年より長崎医療センター勤務。専門は腎腫瘍、腎不全、腎移植、血液浄化療法。
淡々とした優しい語り口で、長崎県の泌尿器科医療30年史を伺ったような気がしました。

医師を目指した動機を教えてください。

幼い頃病気がちで色々な科の先生方にお世話になっていたことが理由にあります。高校で理系クラスにいたのですが、物理や数学が苦手で、理工系ではない理系の職業という少し消極的な背景もあります（笑）

泌尿器科を志望された理由は何ですか。

学生時代に腎臓に非常に興味をもち、腎臓専門医になりたいと思っていました。腎臓内科と泌尿器科を迷いましたが、腎不全を考えた場合、移植を含めたトータルな治療がしたいと考え、泌尿器科に入職しました。



大学院時代 日本透析医学会（横浜）



腎移植手術

泌尿器科に入局され33年間の腎不全医療の変遷を教えてください。

入局当時の透析の機器は不十分なもので、透析治療は苦痛な時代でした。若い人が透析に入ると半分は亡くなるという悲惨な現状の中、それを救えるのが移植ということで、モチベーションを高くもち取り組んでいきました。現在は透析技術もずいぶん進歩し、また原疾患も糖尿病や高齢者の腎硬化症の方が多数透析を受けておられます。

腎移植の変遷も教えてください。

私が入局した1980年代前半は免疫抑制剤がステロイドとイムランしかなく、献腎移植をしても、1年の生着率が半分かくらいでした。1986年にシクロスポリンが登場したことで、飛躍的に予後が改善し、現在生体腎移植の10年生着率が80%をこすようになっています。薬剤も進歩し、血液型不適合、先行的腎移植、高齢者、糖尿病の方の腎移植など多様な選択肢が増えてきました。

長崎県の腎移植は多いのですか。

長崎県の腎移植の歴史は日本の中でも古く、1965年が第一例目で昨年末までで356例です。特に長崎は献腎の比率が4割～5割と高いのが特徴です。献腎提供の推進に関しては大先輩の進藤先生や松屋先生が長年力をいれて活動されて、長崎県の救急や脳外科の先生方の多大なるご協力により、全国平均の3倍～5倍の提供数があります。私も微力ながら色々なところを回ってご協力をお願いして

きました。現在長崎大学と当院とで1年で15例前後の移植を行っており、多様な生体腎移植にも対応しております。



学会で恩師の進藤和彦先生、原田孝司先生と

低侵襲手術にも力を入れてらっしゃいますね。

腹腔鏡下腎摘出術は泌尿器科で当初より関わらせていただき、私が執刀した腹腔鏡手術は300例を越えております。長崎県下では最も症例経験が多いのではないかと思います。もっぱら最近に関連病院で若い先生方の技術認定医取得の指導をやって参りました。

泌尿器科への入局数も増えているみたいですね。

数年前より教室全体として泌尿器科の魅力を伝えて、フォローして行こうという取り組みを強化したのが背景にあるのではないかと思います。当センターでもスタッフみんなで一生懸命研修医の指導に当たったのが今につながり、興味をもって入局いただくケースが増えてきたのかなと思います。



血液浄化療法部の先生方と

泌尿器科の魅力はどのようなところですか？

担当する領域が幅広いところですね。腎臓を中心に色々な臓器につながり、一般泌尿器科のみならず腎不全・腎移植から副腎や副甲状腺などの内分泌外科まで多岐に渡ります。研修医、学生の方々からも「こんなに多岐にわたる治療をしているのですね」と実際研修して驚かれます。

診療のモットーを教えてください。

患者さんが元気になるためベストを尽くすことです。また毎日患者さんをよく診ることです。腎移植を主にしていましたので、昔は患者さんの状態の小さな変化やデータの微妙な動きを1日見逃してしまうと拒絶反応や合併症で移植腎を失うことになっていました。先輩の先生からも毎日よく診ることの大切さを指導していただき私の現在のモットーにもなっています。癌の患者さんはもちろん、腎不全で苦しんでいる方が元気になり喜んでいただけることが、何よりの生きがいであり大きなモチベーションです。



若き日の、松屋先生と透析室で

ワークライフバランスはいかがですか？

たまにはありますが、ゴルフをやったり、家族と波止釣りをして、リフレッシュしています。

長崎医療センター泌尿器科での今後の展開を教えてください。

当センターは救急病院でもあり、大学レベルの専門性の高い医療も提供しなければならないという両面性を持った、やりがいのある病院だと思います。今後腎移植の症例数ももっと増やしていきたいと考えておりますが、自分の専門領域だけでなく、トータルな泌尿器科のプロフェッショナルにもなりたいと思います。

また色々な科の先生方と連携して横の繋がりも深めていきたいと思っています。

最後に若い先生に向けてメッセージをお願いします。

若い先生方にはしっかり患者さんと向き合い、よく診てほしい。患者さんの病気を診るのではなく、患者さん全体をよく診てほしい。

泌尿器科は先輩後輩の垣根も低く、家庭的な雰囲気です。たくさんの若い先生に泌尿器科を研修していただき、患者さんから「先生に診てもらってよかった」と言ってもらえるように一緒に頑張っていきましょう。

本日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

職場紹介

9A副看護師長 西 紗津樹

【9A病棟紹介】

9A病棟は血液内科・呼吸器内科の化学療法を取り扱う化学療法センターとして位置付けられた病棟です。クリーンルーム10床を含む56床で、院内で最も多い病床を有しています。血液内科では白血病・悪性リンパ腫・再生不良性貧血・骨髄腫などの化学療法、造血器腫瘍に対する造血幹細胞移植も行っています。呼吸器内科では主に肺がん、転移性肺がんに対する抗癌剤治療や放射線治療を行っています。

造血幹細胞移植前の大量化学療法や造血幹細胞移植、化学療法、輸血療法といった専門的治療が多く、がん化学療法認定看護師2名を中心に安全・安楽な入院生活ができるよう治療のスケジュールを患者さんと共有し、日々看護を行っています。

また、化学療法の副作用により疼痛や食欲低下、呼吸苦、気分の落ち込みなど、苦痛を訴える患者さんも多く、患者さんと家族が自分らしく過ごせるように、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士をはじめとした多職種でカンファレンスを行い、緩和ケアにも力を入れ、日々協力して治療・ケアを行っています。



9A看護師長 大山 加奈子

【職場のホープ 9A病棟 上田彩夏】



2年目看護師の上田彩夏さんを紹介いたします。2017年4月に9A病棟に配属されました。

入職当初は緊張の毎日で不安そうな表情をしていましたが、少しずつできることが増え、自信もついてきたように思えます。最近先輩たちから「4月からは後輩が来るよ!」という言葉にいい意味での緊張感が出てきたように感じます。患者さんからは採血が上手だとよく褒めの言葉を頂きます。笑顔が素敵でいつも患者さんに対して一生懸命な姿勢を見て、よく成長してくれたなと同時に指導してくれた先輩スタッフに感謝の気持ちでいっぱいです。上田さんの趣味はお菓子作りで時々病棟に差し入れを持ってきてくれます。

バレンタインのチョコはとてもおいしかったですよ。これからいろんな勉強や経験をして患者さんのために「その人がその人らしく」の看護が提供できる看護師になってくれることを期待しています。

医療センター講演・研修・テレビ出演等(5月)

(敬称略)

CPC

開催日	時間	開催場所	内 容	講 師
5月1日(火)	18:30~20:00	人材育成センターあかしやホール	75歳・男性 鬱病、敗血症	症例担当:浅野太郎、稲田明穂、内山憲一郎、山元暢 臨床指導:森隆浩 病理指導:大坪智恵子、伊東正博

がん化学療法セミナー

開催日	時間	開催場所	内 容	講 師
5月2日(水)	18:00~19:30	臨床研究センター会議室	曝露対策 薬剤師の曝露対策	がん化学療法看護認定看護師:吉村裕美 がん薬物療法認定薬剤師:谷口潤

これらの講演は、地域の医療従事者の皆様に開放しています。詳細は病院のホームページをご参照下さい。 <http://www.nagasaki-mc.jp/pages/205/>

TOPICS

ロサンゼルス退役軍人病院見学研修報告

形成外科医師 松尾 はるか

国立病院機構には専修医海外留学制度という、ロサンゼルス退役軍人病院へ見学研修の機会をいただける制度があり、2018年1月29日から3月3日まで研修に参りました。退役軍人病院という名称ですが、特別な機関ではなく、政府の病院として保険でカバーされる診療が行われています。



Dr.Reissと病院前で。

私は形成外科とリハビリテーション科の研修を選択しました。褥瘡や熱傷の手術や周術期管理、その後のリハビリテーションを見ることを期待していたのですが、それらの疾病は集約されて特化した病院で加療を行うことがほとんどで、その他の病院で加療を行うことは稀なのだそうです。残念に思っていた所、リハビリテーション科のDr. Oshiro

が、形成外科医師で旦那様のDr. Reissを通してTorrance Memorial Medical Centerに連絡してくださり、熱傷・創センター見学の機会をいただきました。私立の病院で施設やスタッフが充実していることはもちろんですが、むしろ、治療のやり方や方針は同じなのだという当たり前のことに気づかされました。同年代のレジデント医師や医学生の間診やアテンディングを間近で見られたこと、彼らと個人的なつながりをもてたことも素晴らしい糧となりました。海外研修応募にあたり、お世話になりました関係各位には厚く御礼申し上げます。



退役軍人病院形成外科メンバー。誰が医学生でしょうか？

地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室のご紹介

地域の先生方、医療スタッフの皆さま方には、日頃より、長崎医療センター地域医療連携室にご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

平成30年4月1日より地域医療連携室のメンバーが変更になりましたので、紹介させていただきます。

地域医療連携係長を新しく尾上（地域医療連携室には4年振りに戻りました）が務めます。地域医療連携室は、地域医療連携室長、地域医療連携係長、退院調整看護師6名（うち、診療看護師1名）、MSW2名、事務職員4名の組織です。不慣れな部分もあるかと思いますが、今後も地域医療支援病院として、先生方との連携の充実に取り組んでいきたいと思ひます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



SENSAIごはん

春キャベツとあさりの
和風チャウダー

今回紹介したレシピのように、食材と一緒にだしを煮出すのも時短になるからオススメ！だしの風味をより一層楽しみたいという方は、だしパックを煮出す前に1時間くらい水に浸してから火にかけてみてね。



材料（4人分）

- あさり（殻付き） 300 g
- 酒 100ml
- 春キャベツ 1/3 玉
- 玉ねぎ 1/2 玉
- 人参 1/2 本
- 水 400ml
- 極旨香だし 1 パック
- 味噌 大さじ 2
- 豆乳 200ml
- バター 大さじ 1

作り方

- ① あさは砂抜きをし、表面をこすってよく洗う
- ② ①と酒を鍋に入れ、蓋をして中火で加熱する
- ③ あさりの口が開いたら、火を止める
※煮汁は取っておく
- ④ 春キャベツはざく切りにする
- ⑤ 玉ねぎ、人参は1cm 大の角切りにする
- ⑥ 鍋にバターを熱し、⑤を炒める
- ⑦ 水と極旨香だしを入れ、具材が軟らかくなるまで煮る
- ⑧ ③・④を入れ、一旦火を止めてから味噌を溶く
- ⑨ 豆乳を加えて再加熱する

管理栄養士 中村より



野菜に含まれるビタミン類の多くは水溶性（水に溶けやすい性質）なので、スープにすることで、食材に含まれる栄養素を無駄なく摂取することができます。また、味噌汁に牛乳や豆乳を加えることでコクが増すため、少量の味噌でも美味しく食べることができます。減塩対策にもオススメです。

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 臨床研究を推進し、国際医療協力を貢献する
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する

【編集・発行】

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター

長崎医療センターNEWS「SENSAI」へのご意見・ご感想を下記アドレスに募集しております。

Email:sysope@nagasaki-mc.com